

良田平田遺跡

よしだひらた いせき

古代の有力者の家？



<3区>

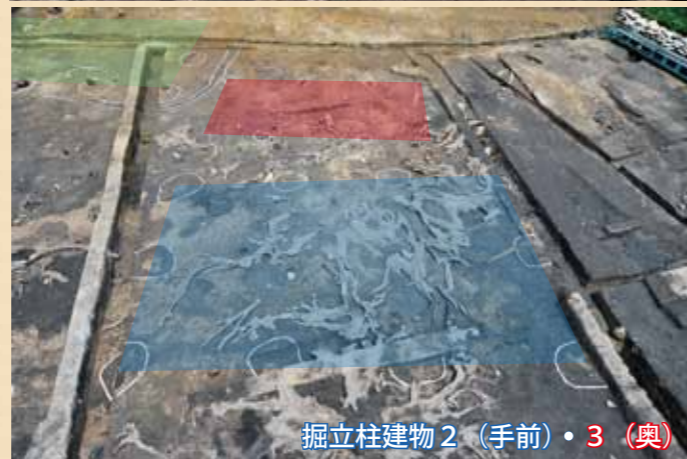
【姿を現した掘立柱建物】

これまでに見つかったいくつかの柱穴の配置から、平安時代（約1100年前）の掘立柱建物を3棟検出しました。

建物1の規模は桁行3間（6.9m）、梁間2間（3.9m）で床面積は26.9㎡（約8坪）になります。建物の柱穴の平面形は、一辺約0.8mの角が丸くなった方形で、すべての柱穴には直径30cmもある太い柱が残っていました。

建物2は、桁行3間（6.7m）、梁間2間（4.2m）で、建物1とほぼ同規模ですが、すべての柱を抜き取り、その時できた穴に粘土を詰めて埋め戻していました。

このことは、建物2を壊して丁寧に整地した後に、建物1が建てられた結果と考えられます。



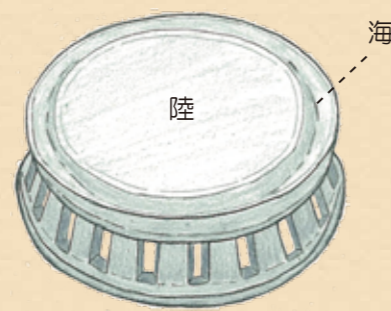
【平安時代の硯も出土！】

調査区の中央部を東西方向に流れる溝の中から、須恵器の硯が出土しました。硯は円面硯と呼ばれるもので、上から見ると丸い形をしています。真ん中の部分が墨を磨る「陸」で、その周囲を巡る溝は磨った墨を溜める「海」です。硯には脚がついており、長方形の透かし孔がつけられています。

これまでもご紹介してきましたが、当調査区では墨書土器や木簡のほか、立派な建物もみつかり、文字を読み書きできる有力者がここにいたのでしょう。



出土した円面硯



円面硯（復元図）

僕が使っている硯とは、ずいぶん形が違うようだなあ。
10月15日（土）の現地説明会に行ったら確かめてみよう。



鳥取西道路の遺跡を掘る！

第29号 2011年9月22日

発掘調査では、長い間土の中にあってもろくなり、触れると壊れそうな遺物がみつかることもあります。

そのようなものを取り上げる時には、意外なものが活躍するのです。



壊れやすい遺物を取り上げる

直接触れると壊れそうなものを取り上げるには、その下にある土ごと取り上げます。そこで登場するのが、骨折した箇所を動かさないよう固定する医療用ギブス。土ごとガッチリと固めて、遺物を守ります。

ここではカゴを取り上げるようすをご紹介します。



カゴの下の土を残して、周りを掘り下げていきます。



掘り残した土の周りにギブスを巻きつけて、崩れないように固定します。



ギブスが硬くなってから、アルミの板で底の土を切り離し、固めた土ごと運び出します。



取り上げたものは、事務所できれいにし、写真などの記録を取ってから、保存処理を行うことになります。



（財）鳥取県教育文化財団
調査室
美和調査事務所
〒680-1133
鳥取市源太12番地
（旧鳥取湖陵高校美和分校内）
TEL：0857-51-7553
FAX：0857-51-7550
メールアドレス：
matsaik@pref.tottori.jp

お知らせ

10月15日（土）に、良田平田遺跡・高住井手添遺跡・高住牛輪谷遺跡で現地説明会を開催いたします。発掘現場や出土した遺物を身近にみる事ができる機会ですので、ぜひお越しください。詳しくはホームページなどでお知らせいたします。

鳥取県教育文化財団 調査室

高住井手添遺跡

たかすみ いでとえ いせき

縄文時代の川
弥生時代の溝

これまで調査してきた縄文時代晩期（約3000年前）の川は、調査区北側で大きく西にカーブしています。周辺からは流れ着いた木材がたくさんみつき、10個めとなる編みカゴも出土しました。



10個めの編みカゴ



編みカゴ出土位置

大量の木材

川の流れている方向



高住井手添遺跡

国土地理院1/25000地形図「鳥取南部」より

また調査区の地形は、北西側に向かって低くなっていて、自然の川や人が掘った溝が幾重にも重なり合っています。これらは多量の土砂で埋もれており、湖山池にほど近いところで、たび重なる氾濫があったことがわかります。

溝の中には、スギやヒノキのような針葉樹の樹皮を敷いていたり、角材を打ち込んで板を固定した構造物を設置しているものがあります。周辺からは、弥生時代中期頃（約2100年前）の土器がみつかり、その頃に造られた水利施設の可能性があります。



溝に敷かれた樹皮



角材で固定された板



何千年も昔の人がつくったモンが、そのまま出てきたか！
よっしゃ！現地説明会に行かあでえ～

発掘現場で
お待ちしてまーす！



高住牛輪谷遺跡

たかすみ うしわだに いせき

土器が
ざくざく！

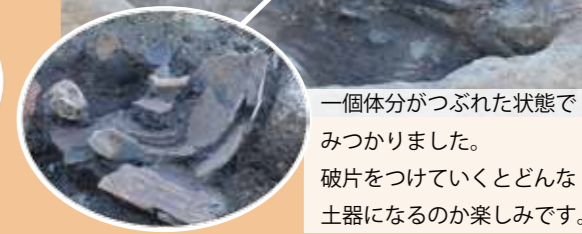
溝や穴といった遺構を掘り下げていくと、遺構の中から多くの土器がみつかりました。

出てきた土器は、使われていた時代や、その埋まり方など様々です。写真のほかに、縄文時代後期（約3500年前）の土器の破片がみつかった穴もあります。

土器の破片がばらばらに入っています



弥生時代後期（約1800年前）の土器



古墳時代前期（約1600年前）の土器

一個体分がつぶれた状態でみつかりました。破片をつけていくとどんな土器になるのか楽しみです。

以前も古代・中世の水田がみつかったことをお伝えしましたが、縄文時代以降、3000年以上にわたる長い間、高住牛輪谷遺跡が人々の生活の場として使われ続けてきたことがわかってきました。



高住牛輪谷遺跡

国土地理院1/25000地形図「鳥取南部」より

高住平田遺跡

たかすみ ひらたに いせき

古代の川から
土器が出土！

北側の調査区の隅では奈良～平安時代（約1300～1000年前）の川の跡がみつかりました。これは、昨年の調査でみつかった古代の川の続きにあたります。

川底からは、昨年と同じように多くの土器が出土していて、なかにはほとんど割れていない皿やお椀もあります。

さらにこの川の続きは南側にある調査区に伸びていますので、今後の調査でさらに多くの土器が出土するものと期待しています。



古代の川を南からみた写真



川底から出土した平安時代のお椀



高住平田遺跡

国土地理院1/25000地形図「鳥取南部」より